

ケナフ紙すきで クリスマスカ - ド作り

生4 環 西田 金重

平成16年12月18日(土) こうべ環境未来館でグル - プわ 本部主催、環境部会ケナフの会協力でケナフによるクリスマスカ - ド作りを行った。

本イベントは2年前から「親子で集まれケナフ紙すき塾」として実施して来たものと同じであるが、本年はケナフを通じて地球温暖化防止を一層啓蒙するため、会場を環境未来館にし、対象が親子であるので、まず紙芝居により地球温暖化、ケナフの働き等をわかり易く話し、次いでケナフによる紙すき、クリスマスカ - ド作りを次のように進めた：

10：20～10：40：紙芝居

10：40～12：15：紙すき

12：15～13：15：昼休み（希望者は未来館、ピオト - プの見学）

13：15～14：25：クリスマスカ - ドの作成

14：25～14：40：ふりかえり

14：40～15：00：掃除

道具や会場の制約上60名定員としていたが、当日欠席もあり、ほぼ満員に近い56名・16家族の出席があった。この中、約80%の方は環境未来館は初めての方達であった。主催側は中島実行委員長、赤司代表、わ本部スタッフ、環境部会ケナフの会、在校生ケナフの会のメンバ - 約30名が出席し、種々の準備、指導を行った。行事進行は中島実行委員長によって行われた。

以下実施状況を述べる。

紙芝居は初める前に質問すると、地球温暖化が炭酸ガスの増加によって起る等を知っている子供は約20%、ケナフを知っているのはもっと少なく、約5%位であった。このようなことを踏えてケナフの会が創作した紙芝居により紙芝居のベテランが、「地球温暖化はどうして起るのか、温暖化が進むと海水の上昇等どんな困ることが起るのか、ケナフは地球温暖化防止にどのように役立つのか、ケナフはどうやって栽培するの



か、地球温暖化防止のため、皆はケナフ以外に日常生活でどんなことをしたらよいのか」等を子供が退屈しないように質問しながら紙芝居を進める対話式で約20分間説明した。

子供達は幼稚園の子供もいたが、熱心に話を聞いた。午後に行ったふりかえりシ - トや、ふりかえって見ようの発表で多くの子供達より「ケナフを作りたい、温暖化防止のため電気、水を節約したい、車に乗らず歩くようにしたい」等の感想が述べられ、我々が期待した成果があったと思う。

クリスマスカ - ドの作成は6テ - ブル（各テ - ブル約10名）に分かれて、1人2枚のケナフ葉書の紙すきを午前中に行った。子供達およびお母さん、お父さんも殆どが紙すきは初めてで、童心に帰って紙すきをした。時間節約のため、紙すきで作られた濡れた葉書を昼休みに我々スタッフがアイロンで乾燥させた。

午後から子供達は乾燥したケナフ葉書に12色ボ - ルペンでそれぞれが好きな絵を描き、子供全員がクリスマスカ - ドを作り上げた。親子にとって思い出に残るクリスマスカ - ドが作れたと思う。

作品発表とふりかえりは中島氏の司会で、作ったクリスマスカ - ドの作品発表とテ - ブルごと

に子供1人、親1人の感想発表を行った。主な感想は次のようである。

●親子で4時間余の長い時間、楽しく地球温暖化の勉強と初めての紙すきを体験することができた。感謝します。

●地球温暖化とケナフについて、色々知ることができた。来年はケナフを育てて見たい。エネルギー（電気、水）を節約したい。

●作ったケナフクリスマスカ - ドは思い出に大事にしたい等。

今回は「ケナフから学ぶ地球温暖化」をテ - マに、場所も環境未来館を選び、紙芝居による地球温暖化の話、ケナフによるクリスマスカ - ド作りの体験をして貰った。親子共々紙すきの楽しさを体験すると共に地球温暖化とケナフをある程度理解して貰ったと思う。本イベントに参加されたのは紙すきの道具、会場の制約などから60名足らずの少人数であったが、参加の方々の地球温暖化活動がきっかけとなり、活動の輪が広がることを期待したい。

また、我々にとっては親子3代の楽しい交流ができた喜びと共に地球温暖化防止に役立てたという満足感が残った。

イベントに協力して頂いた環境未来館の皆様へ感謝申し上げます。

前ページから続く

家族ごとに楽しみ、子供たちは近くの土手で坂すべりを楽しんだりして午前の部が終了。

午後1時から里山に隣接した広場でリース作り、木工おもちゃ作り、名札づくりなど各グループにわかれ大盛況。いずれのグループも大変人気があって参加者特に子供たち以上にお父さん、お母さん方が熱心に取り組んでいた。今回は木工グループから4人の応援を得て里山で間伐した小枝などを利用したおもちゃづくりを実演指導、またリース作りでは里山のメンバーが事前に集めた葛の蔓や木の実など20種類を超える豊富な材料が準備されて、中国人家族などはリースづくりに強い関心を

寄せ指導を受けながら製作に熱中。予定時間を大幅に越えて楽しんでおられた。

さらにイベントを盛り上げるためにマテバシイの実の試食会や珍しい昆虫の標本の展示などもあわせて実施。お土産には竹とんぼが全員に配られた。

本部スタッフ6名を含む総勢27名のスタッフの活躍で事故もなく楽しい一日が終了した。

参加者の書いた振り返りシートには「こないだ里山が身近にあるとは知らなかった」とか、「いろいろな草花を知ることができて大変勉強になった」、また「次も参加したい」、など反響も大きくスタッフの事前の努力が報われた気持ちで一杯だった。